



九条の樹

116号
2026年3月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：Tel 042-473-9489（鈴木）
http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com

東久留米に 「九条の碑」を つくりましょう

今、全国に憲法九条の碑が建てられています。私たちのまちにも憲法九条の条文を刻んだ碑文を立てたい、そういう願いを実現させようと有志が集まって、第1回目の話し合いを持ちました。（1月24日）。

この話し合いで次のことを決めました。

- ①目標として3年以内に建てる。
- ②カンパ目標300万円。
- ③九条の碑を建てる会（仮称）の発足のつどいをおこなう。

戦争体験者が減っていき、戦争を二度と起こさないという憲法九条の値打ち、意味を若い人たちにも知らせ、平和憲法



埼玉県東松山市の「九条の碑」

を引き継いでいっても、らいたいの、そういう願いを込めたものです。

この話し合いの後、総選挙で憲

法九条改悪を公言する自民党が衆議院の3分の2以上を占める状況となりました。この流れに反対し、「戦争は絶対いや！」という私たちの思いを九条の碑という形にしていきましよう。

日本国憲法

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

東久留米「九条の会」へのカンパを多数お寄せいただきありがとうございました。憲法九条は「日本の宝」「戦争は絶対いや」九条は変えさせないという皆様の思いが伝わってまいりました。今後の活動に大切にさせていただきます。（事務局）

世界にひろがれ 憲法9条

伊藤千尋さんのおはなし ③



憲法九条は世界からどう評 価されているのでしょうか

アフリカ沖の大西洋、スペイン領カナリア諸島に憲法九条の碑があると初めて聞いたのは20年近く前になります。信じられなかったのですが行ってみました。スペイン経由で飛行機で行きました。空港からバスでテルデという街に行きました。町の人に聞くと「あちらの広場だ」と言います。広場についてみると、広場の名前が「ヒロシマナ

ガサキ広場』というのです。そこ

に壁があって白いタイルをしき詰めた上に青い絵の具で文字が焼き付けてある。その文字がスペイン語に訳された憲法九条なんです。なんでできたのか聞いてみると、空港とテルデを結ぶ道路の工事で空き地ができ、そこを何にするか。当時の市長が「広場にしよう」ということになって市民が平和を考える広場にということで名前はヒロシマ・ナガサキ広場にして、モニュメントとして日本の平和憲法を思い付いたそうです。市議会で議論になって「なんでよその国の憲法？」議論した結果満場一致で決まり、1966年1月26日除幕式があったそうです。島民千人が集まり、最後はベーターヴェンの歓喜の歌を合唱したそうです。この島は沖繩と緯度が同じだそうです。日本の憲

法が評価されているんだとひしひしと感じられました。同時に思ったのはアフリカ沖の島にあるのに日本では見たことがない。我々は何をしているんだとも思いました。

日本に帰ってきて沖繩に行ったら沖繩に九条の碑があるのを知ったんです。沖繩に読谷村という村があります。沖繩戦のとき米軍が最初に上陸してきて大変な激戦になったところなんです。当時の村の人口の半分3千人が亡くなっています。その沖繩戦の取材に行き読谷村の役場に行こうと歩いていると、3メートルぐらいのコンクリートの柱があり、何かと思ってみるとこれが九条の碑だったのです。役場でいつ作ったのですかと聞くと、1945年の終戦から50年たった1995年に、「二度と戦争をしない」という意思を込めて当時の村会議員全員自民党も含めての賛成で村のお金でできたということでした。アフリカ沖の島と似ているなど思

ました。主意書というのを見せてもらいました。「すべての命が当たり前に一生を終えることができる社会。平和なうちに次に命をつなぐ社会こそ私たちの願い。その社会の実現を信じよう。われわれ自身の力を信じよう。世界中が九条の精神で満ちることを信じよう」立派な文句じゃないですか。沖繩の小さな村が世界に向けて発信してるんですね、と僕が言ったら、「うちの村はそんなに小さくありません」と言われました。

すごいと思いませんか。それから日本中の憲法の碑を探して回りました。最初が沖繩の那覇市なんです。1985年、戦後40年ということで建てられました。今から40年前、当時の那覇市長が建てた。当時憲法九条がないがしろにされている。戦争をしない軍隊を持たないと言いつつながら沖繩にどんどん駐留している、おかしい、憲法の精神もないがしろにされている、その憲法の緒言の命を本土に差し向けるのである。沖繩の憲法の碑

は本土へ向いている。これが日本の憲法九条の碑の最初です。

2番目にできたのが広島で

す。広島九条の碑は原爆詩人と言われた栗原貞子さんのお墓にあるんです。『生ましめんかな』という詩をご存じでしょうか。被爆直後防空壕に逃げました。防空壕はうめき声だらけです。若いお母さんが声を上げた「赤ん坊が生まれそうです」ショックで生まれそうになった。赤ん坊どころか自分の命が危ない。おばあさんが声を上げた。「私は産婆です。わたしがその子をとりあげましょう」と言った。そのおばあさん自身瀕死の重傷を負った人です。そのおばあさんが頑張ったんです。夜明けまでかかってやっと生まれそうになった。産湯をしいたいて言ってもないんです。トタン屋根の上のわずかな水で産湯にした。手を尽くして赤ん坊はいきのびられると分かったときにおばあさんは息を引き取りま

した。生ましめんかな。おのが命捨てても新しい命を生み出そうという詩です。作ったのが栗原貞子さんです。

お墓を訪ねたときその横に日本国憲法九条の碑がありま。これは貞子さんの娘のまり子さんが建てたといひます。貞子さんの詩人としての活動や平和運動を支えた娘さんに、貞子さんが亡くなる前、「私がこのひどい原爆症の体で活動できたのも、みんなあなたが支えてくれたおかげ、そのためにあなたは結婚もできなかった。百万円あるから指輪でも買って。」と渡そうとするあまり子さん「指輪なんていらぬ、この百万円でお母さんの願っていた憲法九条の記念碑を立てる」と言つて建つたのが九条の碑です。

条の碑を作りたいたいというので行つてみました。どうしてそういうことを思い付いたのでおときくと「今また戦争をしよう

という世の中になつてきている。なぜそういうふうになるのか。あの戦争の悲惨さがちゃんとして知られていないからだ。九条の大切さも理解されていない。だつたら憲法九条を目に見える形にしよう」と九条の碑を作る運動を始めたんですね。沖繩の本当の一番北、大宜味村という村の役場の前に立てようということ、村長さんも一緒になつて建てられたんです。平さんは対馬丸が撃沈された後六日間も海に漂つて生き延びた方でした。が数年前亡くなりました。彼女が亡くなる前、最後の人生の仕事が憲法九条の碑を残すことだつたのです。

東久留米にも九条の碑を

ほかにも全国に九条の碑が立っています。ぜひ東久留米にも立ててください。地元の人に

も愛される、特徴のある九条の碑を建ててください。

さてそうは言つても外国が攻めてきたらどうするのか、9条で守れるのかという人がいます。軍隊がなくても国を守つている国があります。中米のコスタリカです。軍隊をなくしました。しかし隣のニカラグアが攻めてきたことがあつた。どうしたか。国境警備隊がたつた。その間に国連に提訴したんです。国連が撤退を命令しニカラグアは撤退しました。

ロシアは撤退しなかつたけどたいがい国は撤退するものです。世界の国は大体3段階で武装組織を持っています。警察があつて、国境警備隊、その上に軍隊があります。コストリカは軍隊を持たずに国の独立を守つたのです。日本の自衛隊をどうするか、私は半分ぐらいを海上保安庁に入れればいいと思ひます。(完)

戦争体験記

今も世界の中では…

江川 みつえ

最近テレビで中国解放軍の演習の実況を見た。いろいろやっていたが、「人を殺すことが目的」であるということだけはよくわかった。まず人を殺さなければ敵を倒すことはできないのだと、今更のように気がついてこわかった。平和、平和とこれ程世界中の人々が希い求めているのに、なぜこういふことなのだろうか。中国だけではない。世界中の国々が、毎日、毎日、莫大な軍事費を使ってこのようなことをしているのである。もう戦争はこりごりだとあれ程身にしみてわかったはずなのに、本当に怖いと思う。どうしようもないと、諦めなければならぬのだろうか。それとも世界中の人民の英知で、

これを堰き止めることができるのであろうか。

余命いくばくもない私の時代に、再びあのような時が来るとは思えないが、子孫の代はどうであろうか。あの戦争の終わった日、また、平和憲法のできた日、「ああこれで孫子の末まで戦争にやらなくてすむ」と、しんそこ嬉しかった事を思い出す。戦争でかけがえのない父親を奪われた子を持つ身としては、それがどんなに大きな喜びであったことか。

私たちが経験した戦中、戦後の苦しみを今さら語ったところで、若い人たちには遠い昔の出来事としてしか通用しないであろう。しかし、昔話を持ち出すまでもなく、今現に世界のあちこちで小さな戦いが繰り返され、多くの人が死んでいる。そして、私たちは映像でその有様をそのまま見ることができの。21世紀まであと10年、若い人たちが

よ、この実態をどう捉えどう対応していったくれるのか。どうかあなた方の時代にぜひとも殺し合いのない平和な世界を、南北共存の世界を実現してください。

また、道徳教育を叫ぶ為政者よ、なぜ学校教育の中に奉仕活動を正課として取り入れないのか。他のために己の出来得る力を捧げた時の喜びは実践でしか得られない。「人間みなきょうだい」との意識は、本を学んで得られるものではないと思うのだが。小さい人は小さいなりに、また病人も障害者もそれぞれその人のおかれた立場で、それなりの助け合いをしあつてこそ楽しい。すみよい、よろこび多い社会と言えるのではないだろうか。

* * *

新婦人東久留米支部平和文集『わだち』第1号（1990年頃？）より抜粋。終戦当時江川みつえさんは33歳

《平和を考える本》

『私と家族と「川の図書館」』

（熊谷沙羅・著／有隣堂）



（1400円＋税）

幼い頃から大の本好きだった著者は、2020年、図書館が閉鎖されたコロナ禍の中、「人が本と触れ合える場所」を創ろうと思い立った。13歳ながら、自分で書いた企画書を市役所に一人で提出。却下されたがめげず、自宅や近隣から不要になった本を集め、「密」にならない多摩川河川敷の大きなケヤキの木の下で、日曜日毎に「川の図書館」を開館した。やがて地域に広がって、「本を通じた人々のサードプレイス」になっていく。

著者がこの年齢でここまでできたのはなぜか。熊谷家では、食事時に話題を持ち寄るのが習慣になっていた。そのためには発言に責任を持たねばならないし、下調べも必要。話し合いも大事。デモクラシーの原点は家族の食卓にあった。（高田桂子）